

こと等を知り、学び、自分の生き方や学校生活に活かしています。

縦割りの活動は、「太鼓」「表現」の二つの講座に分かれています。太鼓の講座は地元『生坂龍翔太鼓』の方の指導を受けて文化祭や地域の行事で、表現の講座は読み聞かせボランティアの方の指導を受けて保育園や小学校、福祉施設等で発表しています。

また、生徒会図書委員会読み聞かせの方が一緒になって行う読書指導も行われています。

どの活動も、教科学習では扱わないことについて学ぶことができ、生徒も意欲的に取り組んでいます。地域の方も、生徒への指導と一緒に活動を楽しみにしています。

このように、本校では学校と地域のつながり、地域の方の学校行事や教育活動等への参加や協力等は、以前から無理のない範囲で行われています。

運営委員会等の組織作りはこれからの課題ですが、今まで以上に関係者間の連携を密にし、双方の願いを共有し、学習活動やキャリア教育等へも活動を広げていきたいと思っています。(木船 威)

歩み始めた コミュニケーションスクール 桔梗小学校

「ミシンをかけるときに気をつけるこ

とをいねいに教えてくださって、いいエプロンができそうです。」



ミシン学習が効率的に進みます

六年生の家庭科のエプロン製作で、学習支援ボランティアの方に来ていただいた時の、子どもたちの感想です。担任一人だと子どもたちの順番待ちができ、またミシンにトラブルがあるりきりで担当が対応できない負の実態を助けてくださり、とても効率的に授業が進んでいます。

桔梗小学校では、本年度コミュニケーションスクール(以下CS)化に向けて動き始めています。学校と保護者・地域の皆さんが共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域と共にある学校づくり」を進める塩尻市のスタンスでの立ち上げです。市の地域連携コーディネーターの助力をいただき、五月より準備会から様々な準備を整え、九月に第一回学校運営委員会にこぎつけました。

本校のCSでは、①これまでと同様な授業への支援、②地域と共にできる特色あるカリキュラムの編成、③子どもが地域で貢献できるボランティア活動の計画の三つの願いを模索しています。その実現のために、学習支援部、安全安心支援

部、読書活動支援部、環境整備支援部の四つの支援部を立ち上げました。そして六十九名の皆様にボランティアとしてご登録いただきました。

学習支援部は、冒頭に紹介したミシン・裁縫への支援、クラブ活動の講師を受けていただいています。この先は習字や器械運動などの活動へ広げていきたいと考えています。

安全安心支援部は、これまでも毎日登下校時に子どもたちの様子を見守り、声がけをしていたいただいている安全ボランティアを引き継ぐ形です。子どもたちも安心して「おはようございます!」と元気にあいさつをして登校しています。

これまで何年にもわたって読み聞かせに入って活動していただいた読書活動支援部も継続移行です。本年度も既に数回にわたって読み聞かせを実施。子どもたちは読み聞かせの会をとっても楽しみにしていて、目を輝かせて本の世界に入り込んでいます。

環境整備支援部は、今後学校や周辺的环境整備を計画していく予定です。

来年度からの学校運営協議会発足に向け、今ほできることから始めて実績を積み上げる



「おはようございます」とグータッチ!

中で課題を意識・整理しながら進めています。しかしな

がら、学校の願いと地域の実情をふまえ、CS自体とその活動をいかに位置づけ調整していくか、職員



子どもたちもわくわく! 読書ボランティアによる読み聞かせ

の意識の改革、ボランティアの確保など課題は山積です。地域と共に歩む中で、多様な人々に心を開き、豊かな体験の感じ、地域へ発信できる子どもをめざし、桔梗小CSは歩み始めました。(小河保宣)

地域と共に 本校のコミュニケーションスクール 塩尻中学校

今年も、本校では多くの地域の方々に学校にお越しいただき、様々な場面で生徒に関わっていただいた。そのいくつかを紹介したい。

まず総合的な学習「地域ふれあい講座」では、今年度十八の講座を立ち上げ、そのうち十五講座で地域の方々にご指導をいただくことができた。全校生徒が学年



「阿禮太鼓講座」発表

「地域の歴史講座」発表

【信州教育の日】

「もう、涙が出てきちゃう……。」とつぶやく姿には職員も胸を打たれた。他講座の先生方から「五十年ぶりに中学生になった気がする。こちらが生徒の皆さんから元氣をもらいまし

た。」生徒さんの笑顔を見て、微力ながらもお手伝いができたのではとうれしく思いました。」など、地域の方々にとっても生徒との関わりが張り合いになっていくことが伝わってきた。その他にも、学力向上を目指し、毎週水曜日の放課後や夏休み中に行われる自主学習会での学習ボランティアや、年二回の読み聞かせボランティアなどでも、地域の方々には教室に入っていたい。生徒会活動としては、地域向上委員会が地域の方々の協力のもとに活動を行っている。十月には、塩尻東公民館主催の公民館祭りに参加させていただき、農作物や花の販売、ポップコーンやわたあめを作って配る手伝いなどをさせていただいた。また、今年度は生徒たちの企画により、「昔の遊び」コーナーを設置させていただき、こまやけん玉、竹馬、だるま落としなどで、地域の子どもたちや大人と一緒に楽しむことができた。七月に行われる阿禮神社の例大祭の翌朝の清掃ボランティア活動では、今年度は約百八十名の生徒が集まり神社の清掃を行った。さらに今年度は、委員長提案により、大門で行われる玄蕃祭りの翌朝にも清掃ボランティア活動を初めて実施し、大門商店街を地区の方たちと共に清掃するなど、地域に根ざした活動が広がってきている。こうして少しずつ、地域と学校とのつながりを確かなものに、そして生徒の学びがより豊かになるようにと願いながら、



地域ふれあいギャラリー

「地域ふれあいギャラリー」に、写真や資料と共に展示し、全校生徒で学びを共有している。地域の方々

地域の方と共に活動を進めてきた一方で、地域連携にはまだ様々な可能性があること、この地域には宝のような人材が大勢いらっしやることも感じている。十月には、社会科の歴史学習の一環として、戦争体験をお持ちの方からお話をお聞きする機会を設けることができた。戦後七十年の今年、もっと生徒たちの心に響く歴史学習ができないかと試行錯誤していた折、様々な地域の方のお力添えにより、地元の四名の方々に巡り合うことができたのである。本校の卒業生であり、今年九十歳になる大門の百瀬茂先生は、訓練兵・幹部候補生として厳しい日々を過ごした経験をお話し下さった。また、幼い頃にお父様が出征され、残されたご家族と共に厳しい日々を過ごされた塩尻市遺族会の方々や生徒のお祖母様もご参加くださった。生徒たちはお話を聞ききした後に関心を強く持ち、お話しいただいた先生方に途切れることなく質問し、予定時間を二時間も超過して会を終えた。この時の様子は、現在、本校の「特色ある教育活動」の一つである「地域ふれあいギャラリー」に、写真や資料と共に展示し、全校生徒で学びを共有している。地域の方々



熱心に質問する生徒たち



戦時中の貴重なお話

をお招きすることは、学校にとっても容易なことではなく、地域の方々にも多くの負担を強いられることは確かである。しかし、地域の力を借りることによって、学校の教育力だけでは得られない確かなものがあることを、生徒たちの笑顔や生き生きとした姿が物語っている。地域の方に育てられ、生かされた生徒たちは、この地に愛着を持ち、そしてこの塩尻を背負って立つ人材になっていくであろう。塩尻中のコミュニティスクールはまだ始まったばかりであるが、わずかな営みを少しずつ積み重ね、地域と共にある学校を目指していきたいと考えている。

(高坂由美子)

編集後記

本号では、「我が校の地域連携教育（コミュニティスクール）を見据えて」をテーマとして、四校の取組について寄稿していただきました。ご協力ありがとうございました。

